

## はじめに

教育研究所長 千葉 杲弘

ICU 教育研究所紀要『教育研究』第 37 号をお届けします。まずはじめに、本号の刊行にあたり御協力をいただいた研究所員の皆様に御礼申し上げます。

本号には、ICU 大学院で教育学の分野で博士号を取得された中村、和田の諸君の博士論文の要旨を集録しております。二人の若い研究者の将来の一層の活躍と発展を祈る次第です。

教育研究所は、ICU の研究助成を受けて 2 年計画で諸外国における高等教育機関の選考制度の調査を開始しました。初年度の調査は、地方分権の制度をとっているオーストラリアとカナダの後期中等教育卒業条件と大学・高等教育機関の選考制度に限定することになり、本号に中間報告を掲載いたします。現在日本では、18 才年令人口の減少と大学設置基準の大綱化により、大学改革がかつてないペースで進行しており、多くの大学が生き残りを賭けて大学の質の向上、独自性の発揚に努力していますが、その中で優秀な学生、また大学のカラーに適した学生を獲得することは非常に重要な課題となります。ICU 教育研究所の調査研究が、ICU の大学改革に基礎的資料を提供できれば幸甚です。

1994 年度も ICU 教育研究所は現代的課題に取り組んで参りました。特に有志によるユネスコの『世界教育白書 1994』の翻訳、アジア識字プロジェクトの評価調査への参加、国際理解教育教材作成に対する協力等、学外の活動に数多く参加協力し、ICU 教育研究所の社会的役割も一層認識されるよ

うになりました。特に 1995 年 1 月 22 日に日本国際理解教育学会の年次大会が ICU で開催されたことは、ICU 教育研究所にとっては大変光栄なことでした。

ICU 教育研究所の一層の発展のため研究員各位への御協力と御鞭撻をお願い申し上げます。